

事後評価概要資料

番号	2001	担当課名 道路街路課	
事業名	道路改築事業	事業主体	埼玉県
路線・河川・地区名	一般国道125号 <small>くりはしおとおね</small> (栗橋大利根バイパス)	事業箇所	久喜市、加須市
事業完了年	令和2年3月	事業完了後の経過年数	2年
事業概要	目的	交通渋滞緩和とICへのアクセス強化	
	必要性	<p>一般国道125号は、千葉県香取市を起点に茨城県を經由し、県北東部地域を横断し熊谷市に至る東西方向の広域的な幹線道路である。本路線は第一次特定緊急輸送道路に指定されており、災害時の救命活動や物資輸送を行う重要な道路である。</p> <p>本路線周辺地域では、産業団地開発が進み、交通量の増加に伴い交通渋滞が発生していた。このため、交通渋滞の緩和や加須ICへの更なるアクセス強化を図るためバイパス整備を行った。</p>	
	効果	広域的な幹線道路の交通の円滑化および現道における歩行者の安全・安心な通行空間の確保がなされた。	
	事業内容	総事業費 8,724百万円(税抜)	事業期間 平成19年度～令和元年度(13年間)
バイパス整備 延長：3.9km、幅員：25.0m(4車線、両側歩道) 主な構造物：令和橋(橋長82.6m)			
事業概要図			

事後評価項目	事業の効果の発現状況	(1) 現道交通量の減少 [台/12h] (平日)			
			開通前	開通後	差
		北大桑交差点(旧道)	13,005	3,938	-9,067 (69.7%減)
		佐間西交差点(バイパス)	-	12,496	-
	効果分析の要因の変化	(2) アクセス性の向上 (加須流通団地交差点～佐間西交差点) [km/h]			
			旅行速度(km/h)	アクセス時間(分)	短縮時間(分)
		整備前(現道利用)	20.2	12	6
		整備後(バイパス利用)	36.3	6	
	事業実施による副次的効果	再評価時(平成28年度)との比較			
		<ul style="list-style-type: none"> ・総事業費 6,314百万円 ⇒ 8,724百万円 ・供用年度 令和元年度 ⇒ 令和元年度 ・計画交通量 18,200台/日 ⇒ 16,619台/日(実測) 			
評価結果及び対応方針	(防災機能の向上) 第一次特定緊急輸送道路に指定されており、バイパス整備により、周辺地域における防災機能が向上した。				
	(地域の活性化) 加須ICへのアクセス性が向上することにより、物流の効率化が期待され、企業立地ポテンシャルが向上した。				
特記事項	(安全な通行空間の確保) 歩行者、自転車の通行空間の確保により、通行者の安全性が確保された。				
	<p>(評価結果) 本バイパスの整備により、現道等から本バイパスに交通量の転換が図られ、広域的な幹線道路の交通の円滑化および現道における歩行者の安全・安心な通行空間の確保が図られた。総事業費は増加したが、事業効果は確実に発現している。</p> <p>(対応方針) 事業効果は発現しており、事業の有効性が確認されていることから、再度事業評価を行う必要はない。</p>				
特記事項		なし			